

市長選 米軍住宅増設に「ノー」 国は市民の審判受け止めよ

長島市長が政府に申し入れ表明

十四日投票・開票された
返子市長選挙は、池子の森
への米軍住宅約八百戸の追
加建設に反対する前市長で
無所属の長島一由（三六歳）

が、一万四千二百三十二票
を獲得し、自民党、公明党
にかつがれた無所属新人の
池上てる子氏に三千九百票
余の大差をつけて三選を果

たしました。

長島市長は、当選後の記
者会見で、こう訴えました。

「国が返子市民の民意を決
して無視することがあつて
はならない。池子問題で政
治姿勢を明確にして信任を
いただいたわけで、改めて
市民の民意をバックに重み
を持つて、小泉総理、防衛
庁長官、防衛施設庁長官な
どに申し入れていきたい」

返子市と横浜市にまたが
る米海軍・池子住宅地区を
めぐつて、返子市側に米軍
住宅の追加建設はないもの
とした三者合意（一九九四
年）を交わしました。

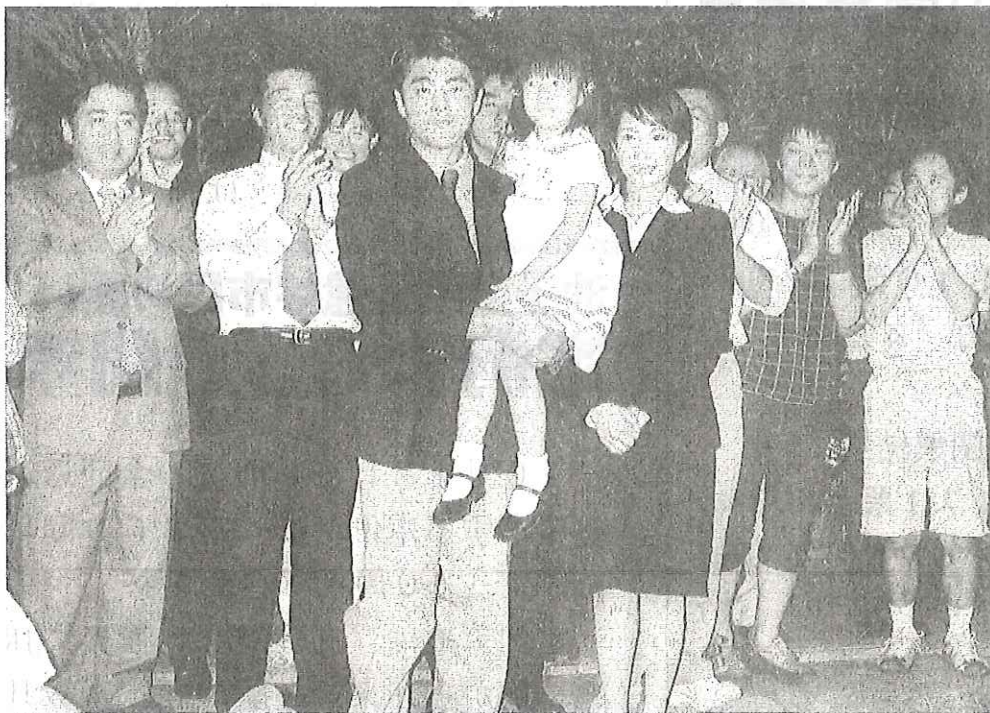
ところが、防衛施設庁は
今年七月、横浜市内の米軍
基地四施設返還の条件とし
て、池子住宅地区の横浜市
側に米軍住宅八百戸を追加
建設するという計画を発表。
返子市の反対を無視する態
度をとりました。

長島市長が、これに強く

抗議し、「辞職して市民の
信を問う」としておこなわ
れたのが今回の市長選挙で
した。

追加建設を推進する小泉
内閣と与党の自民党、公明
党は、同市で追加建設推進
を主張する候補は立てられ
ず、追加建設問題を争点に
しない作戦に終始しました。

日本共産党は、追加建設
反対の一点で長島氏を支援
し、市内の民主団体と個人
などで構成する「池子米軍
住宅建設反対、市民要求の
実現をめざす返子市民・団
体連絡会」とも奮闘しま
した。



当選を決め、家族とともに拍手を受ける長島一由前市長（中央）。左端は日本共産党の
岩室年治返子市議＝14日夜・返子市の自宅



2003年9月号外

日本共産党返子議員団

返子市沼間2-15-4 TEL871-1321

返子市議会控室 TEL873-1111



新人候補も「追加建設の白紙撤回」を訴えて市民に戸惑いが出るなか、「相手候補には、米軍住宅を建てようとしている自民党、公明党がついています。これでは池子の森は守れません」「追加建設反対の一票はこぞつて長島前市長に」と訴え、ビラの全戸配布や対話・支持に力を尽くしました。

そのなかで、市民のなかで「自民、公明が推す候補ではだめ」「違いがよくわかった」との声がひろがりました。
米軍住宅建設反対の運動にたずさわってきた元逗子市議（無所属）の有安八重子（七五歳）も同市池子在住は「町で訴えていると、米軍住宅問題を心配しているらしい方が

いっぱいいるのが分かりました。その市民の意識が長島さんの得票になっていっていると思います。松沢知事や中田横浜市長は、この結果をふまえ、地方自治の本旨にもとづいて池子問題を考えてほしい」と話しています。
【しんぶん赤旗より】

逗子市長選挙の開票結果

2003年		今回の開票結果	
		得票数	(投票率)
長島 一由		14,232票	(58.0%)
池上てる子		10,310票	(42.0%)
		※投票率	50.48%

2002年		前回の開票結果	
長島 一由		12,471票	(48.9%)
鈴木 安之		6,867票	(26.9%)
近藤 大輔		6,161票	(24.1%)
		※投票率	52.48%

1998年		前々回の開票結果	
長島 一由		9,120票	(36.0%)
平井 義男		8,405票	(33.2%)
長島 孝一		3,265票	(12.8%)
田口 汎		3,263票	(12.9%)
田中としき		1,285票	(5.1%)
		※投票率	53.86%

1994年		開票結果	
平井義男		10,350票	(45.3%)
沢 光代		8,779票	(38.5%)
梅川照子		2,405票	(10.5%)
田口 汎		942票	(4.1%)
橋本正博		349票	(1.5%)
		※投票率	49.87%

池子全面返還は市民の願い 定例デモ30周年

10月12日、「池子の全面返還を要求する定例デモ」が360回目を数え、30周年を迎えます。

定例デモは、毎月第2日曜日にJR逗子駅からJR東逗子駅の間（奇数月は逆の順路）を行進。誰でも気軽に参加できるように、横断幕が一枚と回数を表示したプラカード一枚、そして、無言で歩いています。

主催は「池子弾薬庫全面返還市民会議」で個人と団体で構成、第1回目は1973年11月11日にスタート。過去30年の歩みは、池子接收地をめぐる運動とともにあって、過去の返還にむけた高揚期、米軍住宅問題では様々な動きがありました。そのどんな局面でも市民の悲願である池子基地の全面返還を決して諦めない思いから、今日まで粘り強く続けられています。